

令和3年度 学校教育自己診断分析

対象

生徒 701 名（回収率 96.1%） 保護者 577 名（回収率 81.4%）

対象別考察

<生徒>

- ・34 項目において肯定率が増加し、その総数は 12 項目の大幅増となった。そのうち 17 項目は 5%以上増加しており教職員による日頃の教育活動の成果であり、嬉しい結果である。特に、学校行事における・満足度が大きく 23%増加したことについては、学校の方針として、学校行事を可能な限り実施するとして全教職員で取り組んだことが生徒の満足度に繋がった。

授業における満足度がほぼ全ての項目で上昇したことについては、授業改善に向けた教員個人はもとより、組織としての取組みが生徒の満足度に繋がっていると思われる。1 人 1 台端末を有効に活用した「効果的な教授法」について引き続き研修を重ね、組織的な授業改革を推進しなければならない。

- ・教員側の生徒に対する人権意識の向上により、「教員からの寄り添い」を感じる生徒が増加したことがうかがえる。それが「いじめへの対応」や「生徒指導への納得感」の 2 年連続の向上につながった。また、生徒の多様化が進むとともに、共生推進教室を設置している本校にとって、教員集団のカウンセリングマインドの向上はとても大切な視点である。

<保護者>

- ・9 項目において肯定率が増加するとともに回収率が 12%上昇し 81%となった。17 項目で満足度が減少しているが連続して減少しているものは「学校行事への参加」「学校ホームページの閲覧」「PTA 活動の情報提供」の 3 項目のみである。5%以上の増減が生じた項目に着目する。

<肯定率が減少した項目は 2 項目>

- ・「24. 生徒や保護者は、地震や台風などの災害における学校の対応について知らされている。」が 6%減少し 90%となった。依然、高い数値となっているが、年間 2 回、避難訓練を実施していることなどの情報発信に努めたい。
- ・「26. 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」が 6%減少し 71%となった。
コロナ禍で学校行事への保護者入場を制限したことが減少の原因と考えられる。今後、コロナウィルスの感染状況を見ながら、可能な限り保護者の入場を可能としていきたい。

<肯定率が増加した項目は 2 項目>

- ・「15. 体育祭、文化祭、音楽祭や修学旅行などの学校行事は、生徒が積極的に参加できるよう工夫されている。」が 11%増加し 82%となった。学校行事を可能な限り実施するとして全教職員で取り組んだことが生徒同様、保護者の満足度につながった。
- ・「20. 学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」が 5%増加し 82%となった。本校では、いじめ関する職員研修を毎年、実施し、いじめを見逃さず、組織的に対応することを重視し、生徒の指導に臨んでいる。その姿勢が生徒同様、保護者にも肯定的に受け止められていると考えられる。

上記以外で、5%以上増減した項目はなかった。

各カテゴリー別

<学校生活>

- ・「1. 学校へ行くのが楽しい」 生徒 78%・保護者 84%（8%アップ）、「2. 学校に信頼できる友達がいる」 生徒 93%・保護者 90%、「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」 生徒 85%（7%アップ）、保護者「13. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」82%の肯定的回答があった。今年度は学校行事を可能な限り実施できたことで項目 21（話しやすい雰囲気）がアップしたと考えられる。多くの生徒が、安心して高校生活を送っており、保護者も安心感を持っていることがうかがえる。
- ・「16. 先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」生徒 78%（5%アップ 2年間で8%アップ）、「先生はいじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる」85%（6%アップ 2年間で11%アップ）、両質問についての肯定率は増加傾向である。教育相談の充実を重点事項として取組んできた教員側の生徒に対する寄り添い感が伝わっている。多様な生徒が入学してくる状況のなか、大切な視点であると言える。

<学習活動>

- ・「8. 学校での様々な活動をととして、自分の考えを文章にまとめる力が身に付いた。」生徒 65%（2年間で8%アップ）、「11. 興味・関心、適性・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」 生徒 94%（5%アップ）、「9. 教え方に工夫をしている先生が多い。」生徒 79%（2年間で8%アップ）、「6. ボランティアや高大連携など、学校外で学ぶ機会がある。」生徒 47%、「10. テストの得点だけではなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢などを考えて成績が付けられている。」生徒 83%の2項目が3%上昇した。学習に関する肯定率は多くの項目で増加した。新学習指導要領に沿った授業に向けた教員による授業改善の工夫や努力が成果として表れている。嬉しい結果である。
- ・「13. 学校の自習室やHR教室で自習することがある。」生徒 59%が大きく7%増加した。「14. 学校の授業以外に、平均すると1日1時間以上学習している」 生徒 53%が2年間で8%上昇した。進路指導部や学年、教科による学習習慣を確立させるための動機付けや、自習室の開放などの取組みの成果である。さらなる上昇をめざしたい。
- ・「5. 実験、観察、実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」生徒 62%が2年間で9%減少しているのが懸念される。

<キャリア教育>

- ・「19. 将来の進路や生き方について考える授業や行事がある」生徒 88%が4%上昇、「20. 進路についての情報をよく知らせてくれる」生徒 90%は2年間で7%増加している。担任とガイダンス室との連携による、きめ細かい対応や進路指導部、担任を中心とした「総合学科の強みであるキャリア教育」の成果といえる。

<生徒指導>

- ・「15. 学校生活についての先生の指導には納得できる」生徒 58%は3年連続増加し、3年間で14%増加した。引き続き今後も粘り強い指導を継続し「説得」「納得」に基づく指導を心がけ、さらに向上をめざす必要がある。保護者においては「12. 学校の生徒指導の方針に共感できる」78%（3%アップ）は2年間で7%上昇しており、生徒同様、本校の生徒指導に理解を示していることがうかがえる。
- ・教職員「15. 体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」が大幅に12%下降し73%となった。依然、高い数値を示しているが、教職員間で議論を重ね、納得感を高める必要がある。生徒の多様化に伴い年々生徒指導の困難さが増しており、より一層、組織的な

生徒指導が求められるなか、厳しく温かい生徒指導の大切さを教職員集団で共有化していく必要がある。

<人権意識・人権教育>

- ・「25. 人権の大切さについて学ぶ授業や行事がある」生徒 83%（4%アップ）、「26. 障がい者のことや、共生の大切さについて学ぶ授業や行事がある。」生徒 74%（3%アップ）。保護者においても「18. 学校は人権を尊重する意識を育てようとしている」84%と高い肯定率を示している。生徒・教員・保護者合同で「L G B T Q」をテーマとした人権研修を実施したことも高評価を得た一因といえる

<情報提供>

- ・「27. 学校のホームページを見ることがある」保護者 75%は高い肯定率を示しているが2年間で5%減少している。学校の様子や部活動の活躍、朝夕の講習の様子、図書室の催しのお知らせなどを数多く更新（年400回程度のペース）している。内容の充実とともに、トップページをみて、ホームページが更新されたことが即座に伝わるような工夫やホームページの改修が必要である。保護者「28. 学校のホームページや携帯電話メール配信の内容は適切である。」94%、「29. 学校は教育情報について提供の努力をしている」86%、と情報提供に対する保護者の肯定率は非常に高い。引き続き、ホームページを活用しながら、生徒の元気な姿、様々な場面での活躍を在校生・保護者のもとより、地域や中学生にも発信していくとともに、学校からの情報発信の手段として、学校教育活動の周知および危機管理における緊急連絡、さらにオンライン授業の発信等を充実させることが必要である。